

News Release



平成28年1月19日

各報道機関文教担当記者 殿

環日本海域環境研究センターが 文部科学省共同利用・共同研究拠点に認定！

このたび、金沢大学環日本海域環境研究センターは、「越境汚染に伴う環境変動に関する国際共同研究拠点」として文部科学省共同利用・共同研究拠点(※)に認定されました。(認定期間は平成28年4月1日から平成34年3月31日)

環日本海域は、世界で最も産業・経済活動の発展が著しい、世界の中核地域の一つです。一方、急速な発展に伴う人為的要因による大気環境や海洋環境の変化が顕在化し、大気・海洋だけでなく陸域生態系からヒトの健康や社会にまでその影響が及んでいます。本センターは、環日本海域から東アジアにおける自然現象の研究・解明と人間活動により生ずる種々の環境問題の解決をめざし、環日本海域の越境汚染物質に関する挙動・生態系への影響について、国際大気海洋モニタリングネットワークを組織して調査・研究活動を続けており、東アジアの中核的研究拠点としての役割を担ってきました。

今回の拠点認定を受け、本センターは国際共同研究拠点として、環日本海域が直面する環境問題を解決し、持続可能な世界の将来環境を創成するために、大気、海洋、陸域ならびにこれらを統合した環境に関する教育・研究を推進していきます。

※文部科学省共同利用・共同研究拠点制度

大学が有する大型・最新の研究設備や大量の学術資料・データ等を、個々の大学の枠を超えて全国の研究者が共同で利用し共同研究を行う「共同利用・共同研究」を行う施設として文部科学省が認定するもの。本学ではがん進展制御研究所（平成23年4月認定）に引き続き2件目、また、本学理工系では初めての認定です。

【本件照会先】

金沢大学環日本海域環境研究センター長
/医薬保健研究域薬学系 教授 早川 和一
TEL: 076-234-4413

【担当】

金沢大学総務部広報室
本庄 淑子
TEL: 076-264-5024

拠点の概要

越境汚染に伴う環境変動に関する国際共同研究拠点

背景

アジア, 特に**環日本海域**は,
急速な発展に伴う**越境汚染**が深刻化
全球的(気象)から地域的(健康・生態系)影響

目標

環日本海域の中心にある**能登半島**で
統合環境研究

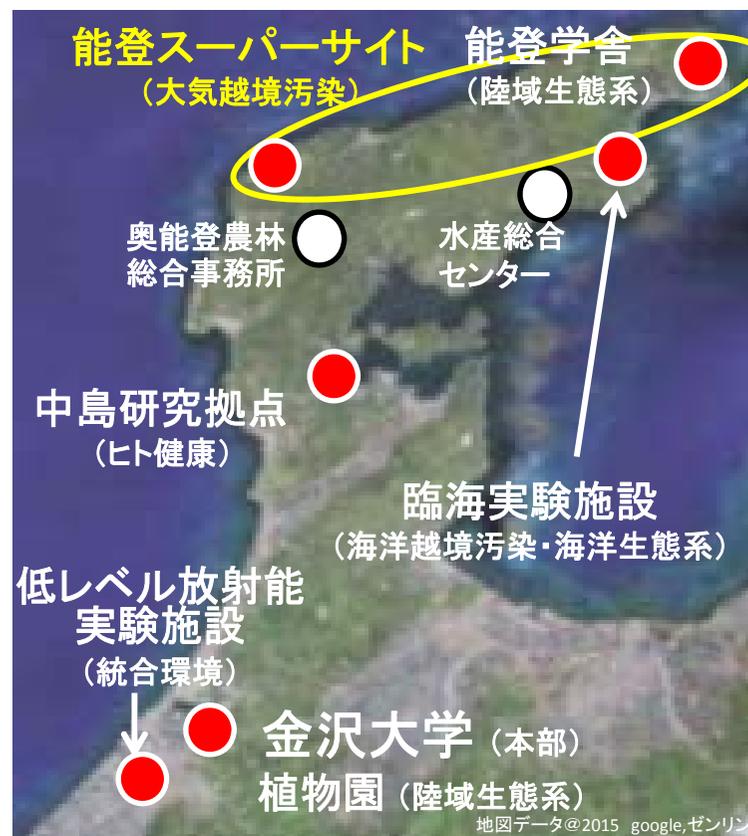
= 大気 + 海洋 + 陸域 + 健康・生態系

能登モデル

成果

金沢大学環日本海域環境研究センターが
国内と世界を結ぶハブ

1. 大気—海洋—陸域間の有害物質の動態解明
2. 統合解析モデルの確立と将来予測解析
3. 有害物質のヒト健康・生態系への影響評価



● 金沢大学施設

○ 石川県施設